

平成15年2月14日

各位

会社名株式会社 京葉銀行
代表者名取締役頭取 綿貫 弘一
(コード番号: 8544 東証第一部)
問合せ先
責任者役職名 取締役総合企画部長
氏名 小島 信夫
電話番号 043-222-2121 (代表)

平成15年3月期 第3四半期の開示について

当行の平成15年3月期第3四半期(平成14年10月1日から平成14年12月31日)における四半期情報について、お知らせします。

以下に記載する数値は、監査法人の監査を受けておりません。なお、単位未満については切り捨てて表示しております。

1. 「金融再生法ベースのカテゴリーによる開示」(単体) (単位: 億円) (参考)(単位: 億円)

	平成14年12月末	平成14年6月末	平成14年9月末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	447	454	455
危険債権	798	792	801
要管理債権	406	366	414

(注)上記の平成14年12月末の計数は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律施行規則」第4条に規定する各債権のカテゴリーにより分類しておりますが、集計方法については以下の点につき他の開示する計数と異なるため、計数は連続しておりません。

1. 平成14年12月末の「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」の金額は、同年9月末時点における金額(債務者区分()残高)をベースとし、同9月末から12月末までに倒産、不渡り等の客観的な事実等があった債務者について、当行の自己査定基準に基づき債務者区分の見直しを行い、債務者区分が下方に変更になったと認められる債務者に対する債権額を新たに加算、または「危険債権」を減額し「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」を加算しております。

また、平成14年12月末については、償却・引当見込額、回収額、及び担保処分見込額等の四半期中の変動は勘案しておりませんが、同年9月末時点の自己査定金額のうち、大口先に対する債権については、四半期中の増減額を勘案しております。

なお、新たに「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」と認められる金額のうち、無価値と認められる部分については直接償却相当額として当該金額を減額しております。

債務者区分との関係：破産更生債権及びこれらに準ずる債権(実質破綻先・破綻先の債権)
危険債権(破綻懸念先の債権)
要管理債権(要注意先のうち、利払が3ヵ月以上延滞しているか、又は貸出条件を緩和している債権)

2. 平成14年12月末の「要管理債権」の金額は、同様に、同年9月末時点における金額をベースとし、同年9月末から12月末の間に正常先、要注意先の債務者に対する債権のうち新たに3ヵ月以上延滞となった債権、新たに貸出条件を緩和したことを確認している債権を加算し、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」及び「危険債権」に変更になった金額を減算しております。

また、平成14年9月末時点の自己査定金額のうち、大口先に対する債権については、四半期中の増減額を勘案しております。

2. 自己資本比率（国内基準）

(参考)

	平成15年3月末(予想値)	平成14年9月末(実績)
連結自己資本比率	8.8%程度	8.89%
連結Tier1比率	7.8%程度	7.90%

(注) 1. 上記予想値は、経営環境に関する前提条件の変化等に伴い変動することがあります。

2. 当行は拠点を国内に限っておりますので国内基準を採用しており、基本的項目のみで国内基準の4%を大きくクリアする見込みであります。また、当行では、公的資金や負債性資本等については、一切取り入れをしております。

3. 時価のある有価証券の評価差額（単体）

評価差額

(単位：億円) (参考) (単位：億円)

	平成14年12月末				平成14年6月末				平成14年9月末			
	時価	評価差額			時価	評価差額			時価	評価差額		
		うち益	うち損			うち益	うち損			うち益	うち損	
その他有価証券	3,672	0	147	147	4,224	28	134	106	3,982	45	143	97
株式	321	119	19	139	362	69	32	102	362	66	27	94
債券	3,293	122	127	4	3,805	101	102	0	3,563	115	115	0
その他	57	2	-	2	56	3	-	3	57	2	-	2

(注) 1. 各四半期末の「評価差額」及び「含み損益」は、各四半期末の帳簿価額（償却原価法適用前、減損処理前。第3四半期は中間期末の償却原価法適用前、減損処理前。）と時価との差額を計上しております。

2. なお、満期保有目的の債券、子会社・関連会社株式に係る含み損益は以下のとおりであります。

(単位：億円) (参考) (単位：億円)

	平成14年12月末				平成14年6月末				平成14年9月末			
	帳簿 価額	含み損益			帳簿 価額	含み損益			帳簿 価額	含み損益		
		うち益	うち損			うち益	うち損			うち益	うち損	
満期保有目的 の債券	124	1	1	-	50	0	0	-	25	0	0	-
子会社・関連 会社株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

4. デリバティブ取引（単体）

(1) 金利関連取引

該当のものはございません。

(2) 通貨関連取引

(単位：億円)

(参考)

(単位：億円)

区分	種類	平成14年12月末			平成14年6月末			平成14年9月末		
		契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
店頭	通貨スワップ	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	為替予約	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	通貨オプション	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引及び下記注2. 3. の取引は、上記記載から除いております。

2. 期間損益計算を行っている通貨スワップ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(単位：億円)

(参考)

(単位：億円)

種類	平成14年12月末			平成14年6月末			平成14年9月末		
	契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
通貨スワップ	32	0	0	54	0	0	27	0	0

3. 先物為替予約、通貨オプション等のうち、引き直しを行っている通貨関連デリバティブ取引の契約額等は、下記のとおりであります。

(単位：億円)

(参考)

(単位：億円)

区分	種類	平成14年12月末		平成14年6月末		平成14年9月末	
		契約額等		契約額等		契約額等	
取引所	通貨先物	-	-	-	-	-	-
店頭	為替予約	4	-	2	-	2	-
	通貨オプション	-	-	-	-	-	-

(3) 株式関連取引

該当のものはございません。

(4) 債券関連取引

(単位：億円)

(参考)

(単位：億円)

区分	平成14年12月末			平成14年6月末			平成14年9月末		
	契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益	契約額等	時価	評価損益
取引所	-	-	-	-	-	-	-	-	-
店頭	-	-	-	30	0	0	-	-	-
合計	-	-	-	-	-	0	-	-	-

(注)ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は、上記記載から除いております。

(5) 商品関連取引

該当のものはございません。

(6) その他

該当のものはございません。

5. 預金・貸出金の残高(単体)

	(単位：億円)		(参考) (単位：億円)
	平成14年12月末	平成14年6月末	平成14年9月末
預金(未残)	25,056	24,550	24,334
貸出金(未残)	20,135	19,893	19,638

(注) 1. 預金については、譲渡性預金を含んでおりません。

2. 貸出金については、部分直接償却を実施する前の計数であります。

【預金】

平成14年12月末の預金実績につきましては、個人預金を中心に平成14年9月末比722億円の増加となり、引き続き順調に推移しております。当行は、本年3月に創立60周年を迎えることとなり、これを記念致しまして創立60周年キャンペーン(第1弾)「アルファバンクのWプレゼント」を平成14年10月15日から12月31日まで実施致しました。おかげさまで、8万口以上のお申込みがあり大変ご好評を頂きました。第2弾として、「アルファバンクのいいものプレゼント」を平成15年3月31日まで実施しております。京葉銀行はこれからも、お客様のニーズに合った商品、質の高いサービスをお届けできるよう努めて参ります。

【貸出金】

平成14年12月末の貸出金残高につきましては、平成14年9月末比497億円の増加を図ることができました。当行の貸出の中核となります中小企業の皆様とのお取引につきましては、3ヵ月間で556先のお取引先と新たにご融資の取引を開始することができました。また、消費者ローンにつきましては、住宅ローンが平成14年9月末比165億円、無担保ローンが37億円の増加となりました。今後につきましても、良質な資産構造の構築を目指し、中小企業向け融資及び住宅ローンを中心としたコア融資の拡大を積極的に推進して参ります。

以 上

本件に関する照会先 株式会社 京葉銀行 総合企画部 石原・青野 043-222-2121
--